

「御遠忌お待ち受け事業特集号」

しやらりん

23 2010/6



# 御遠忌お待ち受け法要

## お待ち受け法要 兼 組門徒会員研修大会

宗祖親鸞聖人750回御遠忌を明年に控え、2010年3月27日、大阪教区お待ち受け行事のオープニングを飾るお待ち受け法要 兼 組門徒会員研修大会が難波別院を会場に盛大に執り行われました。

御遠忌委員会要職の方々の挨拶では、五辻信行教務所長より「お待ち受けとは誰が何を待ち受けているのか、それは親鸞聖人が私たちが待ち受けてくださっているのだ」という池田勇諦氏の言葉が紹介され、深くうなずかされました。

式中、安原晃宗務総長により教区へ『教行信証（坂東本）』影印本の贈呈が行われました。贈呈式は難波別院のみですが、各別院でのお待ち受け法要で影印本の展示が行われます。（編集委員・平野）



坊守会によるコーラス



影印本贈呈



3月27日

## 難波別院

オープニングということもあり、800人以上という多数の参拝者と43人の出仕者がありました。

三木彰円氏（大谷大学准教授）より「後に生まれん者は前を訪え」という講題で講演をいただきました。人として生まれた意義を、念仏との出遇いによって見いだされた親鸞聖人に私たちはたずねていくのだ、ということを改めて確認させていただきました。



4月27日

## 茨木別院

雨は降らないものの、風が強く寒さが抜けきれない天候の中、出仕者25人・コーラス29人を含む総勢約200人とたいへん多くの方の参加で満堂となり、盛大な法要となりました。

講演は宮下晴輝氏（大谷大学教授）から「仏まします」という講題で、仏道を歩むということがどういうことなのか、仏陀と親鸞聖人が歩まれた道を示しながらお話いただきました。

宗祖の御遠忌をお迎えする意義を共に確かめ合うことを願いとしたお待ち受け行事がいよいよ始まりました。お待ち受け法要は教区内別院を回る当行事の柱となるものです。お勤めは、正信偈草四句目下、念仏和讃の同朋奉讃式を基本としつつ、仏教讃歌が盛り込まれる音楽法要の次第になっています。出仕者と参拝者がお勤めを共にする姿は、御同朋御同行と聖人が求められた世界のひとつの表れではないかと感じました。

講演では、先生方が活躍されているそれぞれの場を通して感じられる親鸞聖人の受け止めをお話しくださりました。同時に、真剣な眼差しで聞法されるご門徒の方々の姿勢に自らを問われる思いがし、改めてよいご縁をいただけたと感じています。今後、大和大谷別院、八尾別院を会場とし、さらに難波別院では報恩講と併修してお待ち受け法要を勤修いたします。みなさまのご参加をお待ちしております。（編集委員・平野）

5月15日

## 天満別院

茨木別院の日とは異なり、日差しも強く、汗ばむ陽気の中、出仕者25人・コーラス29人を含む総勢約150人の多くの参加をいただきました。

講演は田代俊孝氏（同朋大学大学院教授）から「ひと・ほとけ・いのち一今、いのちがあなたを生まれている」という講題で、生命倫理的な立場などさまざまな角度から、本当の「いのち」に目覚めることの大切さをお話いただきました。



# 全推進員の集い



現在、大阪教区では2000人余りの推進員が各お寺、組、教区等で活動しています。その推進員の方々が日ごろ活動している中で抱えている問題、課題を共有し、また推進員としての歩みを確認することを願いと、さる4月17日、難波別院御堂会館大ホールにおいて「全推進員の集い」が開催され、教区内から400人を超える推進員、住職、「寺院族」が集いました。

この集いは、お待ち受け事業の一环として開催され、テーマには教区御遠忌テーマと同様の「いのち輝け！今、いのちがあなたを生きている」が、サブテーマには「出遇い・

語り・伝えよう」が掲げられました。

当日は、まず参加者一同で正信偈・同朋奉讃式の勤行。その後、推進員の現状と課題を共有すべく、内山宗之氏（大阪教区門徒会長）の司会で、奥戸義成氏（第14組組推協会長）、土井耕一氏（第26組組推協会長）、松川真哉氏（第16組推進員養成講座教区スタッフ）、藤政朋宏（前大阪教区駐在教導）が壇上に上がり



それぞれ意見を述べました。

その後、京極眞了氏（長浜教区即往寺住職・同朋会館教導）から講演をいただきました。講演の中で推進員の会が開かれる目的について、「どこまでも私たちの信心を明らかにし、自らのあり方を確かめるための会でなくてはならない」と改めて組

推協のあり方について原点に帰るお話をいただき、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

再来年は真宗同朋会運動50周年を迎える年です。この集いが自らの同朋会運動の歩みを確認する機縁になればと思います。（大阪教務所・藤政）

## 親鸞講座

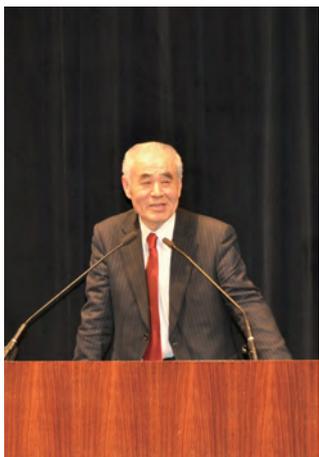
### 第1回（難波別院会場）

御遠忌お待ち受け事業「親鸞講座」の第1回が、4月15日御堂会館大ホールで開催されました。

講師の青木新門氏は、映画「おくりびと」と氏の著作『納棺夫日記』の視点の違い、また、自身の体験を通して、自分の都合ではなく存在そのものをありのまま丸ごと認める大切さ、死から目をそむけないで五感で感じていくことの意義、そこに「一

切衆生悉有仏性」の仏教の教えがあると講演されました。

氏のユーモアを交えながらも実体験から生まれた心に響く言葉に、600人を超える聴衆は熱心に聞き入っていました。（編集委員・難波）



## 第2回 (奈良会場)

前日の雨に洗われて鮮やかさを増した新緑の下、奈良会場であるやまと郡山城ホール(奈良県大和郡山市)にて、第2回親鸞講座が開催されま

した。500名を超える参加者を前に、延塚知道氏(大谷大学教授)が、「今、いのちがあなたを生きている」のテーマで講演されました。

日常、「私が」「自分が」と、自我にとらわれながらも、本当の自分は見えていない私たちです。損得や、良し悪し、勝ち負けという、人間の



の相対的な分別を超えた、無量寿のいのちに生かされていることに目覚めるべきであることを、四十八願を紐解きながら、お話しただきました。

ご自身の体験談も交え、参加者の反応を確かめながら話してください。親しみやすく熱い講演に、会場は時折笑いに包まれていました。

(編集委員・藤林)



## 第3回 (難波別院会場)

さる5月28日、難波別院を会場に第3回親鸞講座が開かれました。第1部では「絆」と題して伊東憲秀氏(第1組 順教寺住職)が講演されました。

氏と坊守さんは長年、里親活動をされ、これまで80余名の子どもを里子として育ててこられました。

事情により実の親と離れても、子どもには伊東家の一員として「居場所」を用意することで、子どもたちに存在の大切さを知ってもらいたい、出会いから命に響くものを感じてもらいたいと願われています。

後半のパネルディスカッションでは、富岡量秀氏(大谷短期大学講師)をコーディネーターに迎え、伊東波津美氏(第1組 順教寺坊守)、近藤希

世氏(善児園保育士)、北畠朋子氏(善児園保育士)をパネラーとして、子どもたちが前に進んでいけるように、居場所を与えて安心できる環境を整えることや、心から信頼できる人間関係を築けるまで優しく見守るにはどうしたらよいかということなど、活発な議論が交わされました。

(編集委員・大戸)

# 子どもの集い



さる3月28日、「子どもの集い」が開催されました。例年は難波別院主催の「花まつり子ども大会」ですが、今年はお待ち受け事業として教区御遠忌委員会と共催となりました。

まずは、ブットンくんのパペーサート(紙人形劇)、「堺チアリーディングクラブ・マリリン」によるチアリーディング、式典に続き、法話「こんにやく物語」がありました。

合間合間に子どもたちの気分転換にもなる歌や踊りをはさみつつ、その後「おつとめのおけいこ」として太鼓やタンバリンを用いたユニークな「正信偈」の練習、「大きな絵本」として、坊守会による『あおくんときいろちゃん』が演じられ、「静かな絵本」として、戸次公正氏(第22組南溟寺住職)による絵本の読み聞かせ、「影絵」遊び、花まつり記念作品展の入賞者表彰式などが行われ、最後は出演者全員が舞台上で勢揃いし、楽しく歌を歌ってフィナーレとなりました。

このプログラムは、すべてのお寺に「子ども会」が開かれることを願いとして、誰にでもできる遊びを中心に構成されました。

1000人を超える子どもたち、ご両親、おじいちゃんおばあちゃん、共にこうして集まり、仏さまのみ教えを聞けるすばらしい「集い」になったのではないかと思います。

教区の通常事業として教化委員会では、教区内寺院での子ども会のお手伝いに、教区のスタッフやブットンくんを派遣して「子ども同朋唱和講習会」を行っています。詳しくは大阪教務所までご相談ください。

(編集委員・澤田)





# ヨーラス大会



さる4月10日、教区お待ち受け  
ヨーラス大会が開催されました。

天候にも恵まれ、全16団体、小  
な子どもから年輩の方まで、700  
人を超える出演者が御堂会館大ホ  
ールに歌声を響かせました。

参加した団体には、各寺院の同朋  
会や婦人会を主体としたグループ、  
組の教化事業から発足したグルー

プ、中にはこのためだけに急遽結成  
されたグループもありました。

参加者全員、日頃の練習の成果を  
発揮したヨーラス大会でした。

ヨーラス大会は、教区では初めて  
の試みでしたが、今後も歌を通して  
仏法に親しんでいければと思います。

(編集委員・久世)

【写真右上より 大阪教区坊守会／

西孝寺婦人会／17組少年少女合唱団

／安泉寺ヨーラス／来迎寺・雲観寺

同朋の会／茨木別院みほとけの歌の

会／教福寺・超願寺仏教讃歌を歌う

会／来通寺合唱の会

左上より 究竟寺婦人会ヨーラス

／願正寺ヨーラス／南桂寺&圓乗寺

ヨーラス／願正寺すみれ会／大阪

教区第16組仏教讃歌合唱団／大谷大

学男声合唱団OBとその仲間たち／

大谷中学校・高等学校／大阪御堂

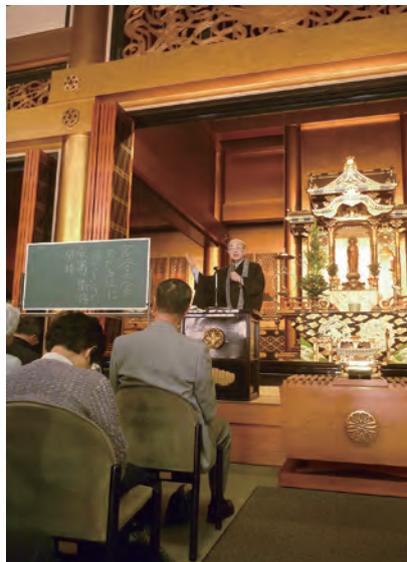
合唱団】

# 同朋大会

さる5月9日、宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け事業として行われた、第38回教区同朋大会。過去2回の教区同朋大会は中之島「グランキューブ大阪」を借りて行いましたが、今回はお待ち受けということもあり、難波別院を会場としました。そのため3部制となり、前半を難波別院本堂にて、後半を御堂会館大ホールにて行うという形式になりました。

本堂では、真空宗歌の後、勤行（正信偈・同朋奉讃式）が勤まり、五辻教化委員長（教務所長）の挨拶。そして、蓑輪秀邦氏（教学研究所長）が「親鸞聖人と私」の題で講演されました。その後40分間の休憩・移動をはさんで、御堂会館大ホールへと会場を移しました。

後半、御堂会館大ホールでは大阪大谷大学合唱部（第3部は御堂合唱団）によって御遠忌ソング「今、いのちに目覚めるとき」が歌われ、司会による同朋大会趣旨文朗読の後、本大会のために制作された教区オリ



ジナルビデオ「出遇えて、よかった。」それぞれのスタートライン」が上映されました。

引き続き「同朋の声」として小林アツ子氏（第6組願正寺門徒）、花房節子氏（第17組徳因寺門徒）、川田洋子氏（第24組常福寺門徒）がお寺でのご自身の活動をスライド写真を交えながら紹介されました。3部合わせて2200人のみなさまにお越しいただきました。

（編集委員・廣瀬）





# 青少年ライブの集い

さる5月22日、教区お待ち受け青少年ライブの集い「であing KIDS'10」が開催されました。

当日は天候にも恵まれスタッフを含め1500人を超える方が参加しました。

まずは難波別院本堂にて正信偈・同朋奉讃式が勤められ、五辻教務所長と、「であing KIDS'10」チーフ馬場洗授氏（第10組明善寺）の挨拶によって集いは始まりました。

小学生を対象とした「ナムナムアドベンチャー」、20歳から35歳の男女を対象とした「本町フレンドパーク」が行われました。その間も境内白洲に設けられた舞台では、様々な

パフォーマンスが行われました。16時から「シネマライブ」が始まり250人が御堂会館大ホールに集まりました。

他にも、教区の坊守さんたちを中心としたフリーマーケットや、各組青年会などによる模擬店の出店など、多くの協力を得ることができました。  
（編集委員・吉内）

【写真上より、白洲に作られたステージ全景・「本町フレンドパーク」の様子・「ナムナムアドベンチャー」にて本堂地下通路を探検する参加者・模擬店の様子】



## 第6組お待ち受け法要

さる6月11日午後2時より、難波別院同朋会館講堂において、第6組

お待ち受け法要ならびに門徒会・組推協総会が行われました。

北村稔門徒会長の挨拶より門徒会・組推協総会が始まり、議長選出、門徒会・組推協会計報告・監査報告と続き、無事第一部の終了となりました。

引き続き、宗祖親鸞聖人750回御遠忌お待ち受け法要を、組内角善寺住職導師のもと厳修し、五辻信行教務所長の挨拶・宗務総長からのメッセージ代読、そして岡本紘組長の挨拶と続きました。

その後、平雅行氏（大阪大学教授）より、「親鸞のあゆみと慈悲」を演題として講話をいただきました。あらためて当時の親鸞聖人の置かれた立場と、「念仏申すのみぞ、すえとおりたる大慈悲心」という言葉を考える機会となりました。

今回は187人の方々にご参加いただき、来年の宗祖親鸞聖人750回御遠忌にむけて、充実した時間を過ごすことができました。これからいろいろな行事が続きますが、楽しんで参加していただければと思います。

（第6組正因寺・頼尊知宗さん）

## 第14組お待ち受け同朋大会

さる6月19日、梅雨空の蒸し暑い天候の中、寝屋川市民会館大ホールにて第14組宗祖親鸞聖人お待ち受け同朋大会が500人を超える参加をもって開催されました。

プログラムは二部構成で第一部では、組内光善寺住職の調声のもとに正信偈草四句目下 念仏讃淘三（和讃 弥陀成仏のこのかたは次第六首） 回向（願以此功德）が厳かに勤められました。その後、植田正之

組長より挨拶並びに宗務総長からのメッセージの代読がなされ、ついで五辻信行大阪教務所長より祝辞をいただきました。

第二部は、組内「教福寺仏教讃歌を歌う会」と組内坊守の合唱により華やかな幕開けとなりました。ついで真城義麿氏（大谷中・高等学校長）に「出会いを支える大地」という講題で記念講演をいただきました。講演では、現代の日本社会が豊かさの



中で、閉塞感に喘いでいるのは何故かという問いが投げかけられ、それは我々が「人間」を経済的価値から「人材」としてしか見ないようになり人が共に生きる場を失っているからだと指摘されました。本願念仏に出会うことによつて、人は「出会いを支える大地」を持つことができるのだとお教えいただきました。

講演後は、大村迪男門徒会長の閉

会の挨拶の後、恩徳讃の斉唱により閉会となりました。

なお、会場ロビーでは親鸞聖人伝絵の解説パネルの展示とともに寝屋川市内「つばさ福祉作業所」の物品販売がなされ、参集の方々の関心を集めました。

(第14組 懇重寺・松尾直哉さん)



## 第18組お持ち受け大会

さる6月19日、大阪教区第18組では、宗祖親鸞聖人750回御遠忌お持ち受け大会が開催されました。梅雨の雨雲がその手を休めてくれたほんのわずかな間、会場となった八尾別院大信寺には沢山の参詣者が集い、仏法聴聞の時をともに過ごしました。

真宗宗歌斉唱、正信偈同朋奉讃式勤行の後、鸞真正組長による開会の挨拶では、「真宗門徒として生きる道」をとともにたずねていきましよう、と呼びかけられました。

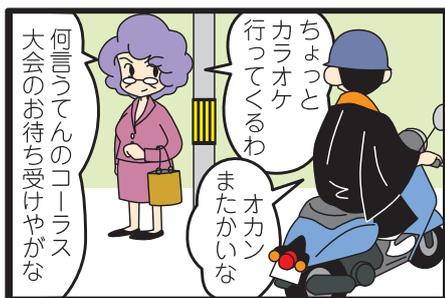
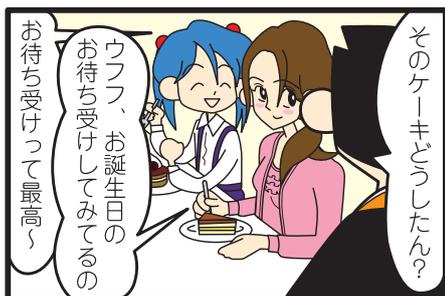
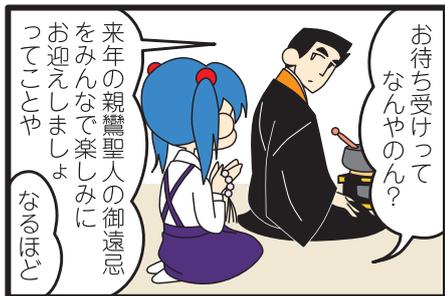
続く御遠忌DVDの上映後、延塚知道氏（大谷大学教授）に「今、いのちがあなたを生きている」と題して講演をいただきました。「人として生きる」ことの痛みと悲しみを、時にくすつと笑ってしまうようなおかしさで包んで、味わい深くお話しいただきました。

大切な師との出会いがあり、真剣に教えを聞く人との出会いがありました。真宗門徒という言葉の内容は、この「人と出会う」ということにもあるのだな。そんな思いを抱いた一日でした。

(第18組 極樂寺・高名 等さん)



## ブットンくんグッズ好評発売中!



**もっと知りたいブットンくん**  
(仏恩)  
年齢: 9さい  
好きな食べ物: 白いごはん  
苦手な食べ物: とんかつ  
得意なこと: 誰ともすぐ仲良くなる。

**缶バッジシリーズ**  
缶バッジ  
マグネット  
ストラップ  
キーホルダー  
各直径3.2cm (缶バッジ部のみ) **各120円**

**ピンバッジ**  
直径2cm **1個180円**

**シール**  
A4サイズ **1シート180円**

**したじき**  
うら おもて  
B5サイズ **1枚240円**

**メモ帳**  
18.8×12cm **1冊170円**

**ブットンくんはがき**  
※120円切手で発送できます。  
A4サイズ **1枚120円**

**クリアファイル**  
ピンク アオ  
A4サイズ ※2種類あります **1枚120円**

**ミニ手さげ袋**  
9×16×18cm ※ヒモ部分除く **1枚290円**

**ノート**  
うら おもて  
A5サイズ ぬりえつき **1冊150円**

**しおり** おしめがね  
※しおりの間にルーペが挟まっています。収納時はマグネットで固定されます。  
4.5×9cm **1個320円**

**ブットンくんせんべい**  
※おなじみ御贈せんべいがブットンくん＆御遠忌テーマ仕様になりました。1箱10袋入り、1袋(3枚入り)のほら巻(100円)もあります。  
1袋100円 **1箱1000円**

お求めは難波別院総務部 (06-6251-5820代表 もしくは info@minamidjo.jp) まで。総数50個以上の購入で1割引いたします。(ご注文の際は住所・氏名・電話番号をお伺いいたします。)

## 編集後記

◆行事や編集作業に お誘いいただき、係っていく中で、人とのつながりの大切さや不思議さを益々実感させられます。◆最近、『酔古堂剣掃(すいこうどうけんすい)』という書にある「千載の奇逢は好書良友に如くはなく、一生の清福は、只茗碗爐烟に在り」という言葉をよく思い出します。◆真の名著や師友に出会うことは大変難しいことであり、心静かに喫茶や香を焚くことにこそ清福があるというほどの意味です。◆前賢先哲の著書を渉獵して箴言に接したり、優れた人格に出会って、その人間性に触れて真実に出会うことで、自己をひとつひとつ尋ねあてていく、全てがそういう機縁の場となっていることが絶えず願われています。◆出会いというものを疎かにしないで、常に大切にしていこう心掛けたいものです。(〇)

発行日: 2010年6月30日  
発行所: 真宗大谷派大阪教務所  
大阪市中央区久太郎町4-1-11  
TEL06-6251-4720

発行人: 五辻信行

- 編集:
- 第4組 常樂寺・久世見証
  - 第9組 浄園寺・難波美千子
  - 第10組 是三寺・北川浩三
  - 第12組 清澤寺・澤田 見
  - 第16組 即得寺・大戸俊彦
  - 第17組 法観寺・廣瀬 俊
  - 第25組 南林寺・藤林容子
  - 第27組 願隨寺・平野圭晋
  - 第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>